

環境経営レポート



株式会社東京オフ印刷

対象期間：2023年4月～2024年3月

発行日：2024年6月20日

1. 組織の概要

- 事業所名及び代表者氏名

株式会社東京オフ印刷
代表社員 石原 寛祐

- 所在地

本社工場	東京都墨田区堤通1-10-21
出荷場	東京都墨田区堤通1-12-2
亀戸紙工センター	東京都江東区亀戸8-14-9 (2018年5月 新設)

但し、アッセンブリ工場は機能変更に伴い、2018年5月に出荷場に名称変更

- 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 DTP部：山本 彩夏 TEL：03-6657-5903
FAX：03-6657-5904
Eメール：yamamoto@tokyo-off.co.jp

担当者 品質管理部：中川 裕一 TEL：03-6657-5903
FAX：03-6657-5904
Eメール：nakagawa@tokyo-off.co.jp

- 事業活動の内容

特殊印刷及び特殊加工

- 事業の規模

主要製品の売上高	5.1 億円/2023 年度
従業員数	37名
内訳	本社 23名 亀戸紙工センター 14名

2. 対象範囲

- 登録組織・活動

当社は全組織・全活動を対象としています。

3. 環境経営方針

株式会社東京オフ印刷 環境経営方針

<企業理念>

株式会社東京オフ印刷は我々の生活の場である地球環境の保全が最重要課題と認識し、あらゆる分野で資源を大切にし、また環境に配慮した取り組み、実行、改善を行います。

<行動指針>

1. 環境関連法規制を守ります
2. 事業活動で排出される二酸化炭素、廃棄物、排水の量を把握し、削減に努めます。
3. 事業の主原料である紙資源、インキの無駄の削減と、再利用に努めます。
4. 環境経営の継続的改善に努めます。
5. この環境方針を全従業員に周知します。

2008年04月01日
改定 2022年05月09日

株式会社東京オフ印刷

代表社員 石原寛祐

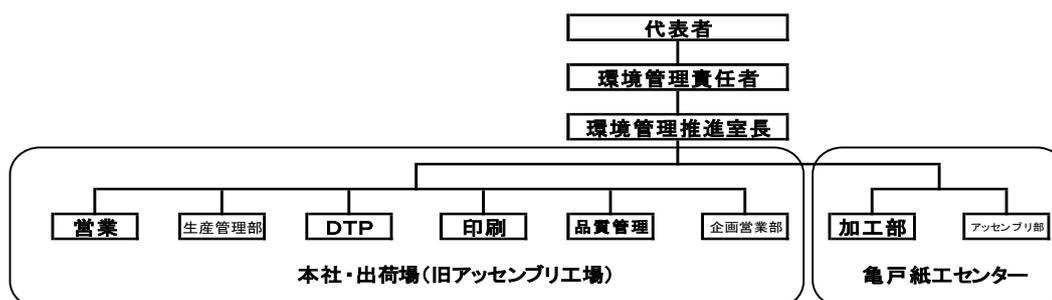
4. 実施体制

役割、責任及び権限一覧

作成	承認
山本彩夏	石原寛祐

事業所	役割	責任、権限
本社 及び 出荷場	代表者 石原寛祐	環境方針の改定 環境管理責任者、環境管理推進室長の任命 環境経営システムの全体取組状況の評価、見直し、指示 環境目標及び環境活動計画、環境レポートの承認 経営における課題とチャンスの明確化
	環境管理責任者 山本彩夏	環境経営システムの是正、予防処置 各部署の責任者の任命 環境目標及び環境活動計画、教育訓練計画の立案 定例会議で前月の集計数値を報告 環境関連法規の遵守状況確認 環境レポート作成
	環境管理推進室長 中川裕一	環境経営システムの是正、予防処置 環境目標及び環境活動計画、教育訓練計画の立案 外部苦情要望受付窓口
	品質管理部 E A 実行責任者 須藤悦夫	自部門の環境活動計画の発表 前月の用紙回収量の集計 前月の印刷用紙の購入量の集計
	営業部 E A 実行責任者 臼井悠華	自部門の環境活動計画の発表 緊急時の行動フローを部署従業員に周知
	生産管理部 E A 実行責任者 澤田宏子	自部門の環境活動計画の発表 前月の電気使用量を集計 緊急時の行動フローを部署従業員に周知
	DTP部 E A 実行責任者 山本彩夏	自部門の環境活動計画の発表 前月のCTP購入量、産業廃棄物量を集計 緊急時の行動フローを部署従業員に周知
	印刷部 E A 実行責任者 今井隆雄	自部門の環境活動計画の発表 前月のインキ、溶剤の購入量の集計 緊急時の行動フローを部署従業員に周知
	経理部 E A 実行責任者 島崎優里弥	自部門の環境活動計画の発表 前月の燃料使用量、グリーン購入数を集計 緊急時の行動フローを部署従業員に周知
	企画営業部 E A 実行責任者 山本彩夏	自部門の環境活動計画の発表 ホームページを通してのエコアクション活動のPR
亀戸紙工 センター	加工部 E A 実行責任者 飯山出	自部門の環境活動計画の発表 緊急時の行動フローを部署従業員に周知
	アッセンブリ部 E A 実行責任者 飯山出	自部門の環境活動計画の発表 緊急時の行動フローを部署従業員に周知

東京オフ印刷組織図



5. 環境経営中期目標・環境経営年度目標の実績

	2018年度 基準年度	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 目標	2023年度 実績	目標 達成 状況	2024年度 目標	2025年度 目標
1.CO2 合計 (Kg-CO2)	161265	141447	141724	154984 96%	145916		153371 95%	150219 94%
・電気 (Kg-CO2) 本社	120734	109128	107734	115905 96%	111298	○	114697 95%	113490 94%
・電気 (Kg-CO2) 出荷場	1591	1794	1518	1543 97%	1495	○	1527 96%	1511 95%
・電気 (Kg-CO2) 亀戸紙工センター	(15400)	15628	16032	14938 97%	17643 114%	×	14784 96%	13090 95%
・ガソリン / 軽油 (Kg-CO2)	23540	14897	16440	22598 96%	15479 65%	○	22363 95%	22128 94%
2. 廃棄物合計 (t)	9.99	13.54	14.15	9.838 98%	11.37 113%	×	9.738 97%	9.733 97%
・一 廃 (t)	0.50	0.27	0.28	0.443 89%	0.29 58%	○	0.438 88%	0.433 87%
・産 廃(廃プラ) (t)	9.49	13.27	13.87	9.395 99%	11.08 116%	×	9.30 98%	9.30 98%
3. 水使用量の削減 (m ³)	478	393	473	468 98%	444 92%	○	464 97%	459 96%
4. 化学物質の適正管理(kg)	227	211	214	205 90%	234 103%	×	203 89%	201 88%
6. 特色色合わせの改善 による廃インキの削減 (Kg)	572	762	625	555 97%	566 98%	×	549 96%	549 96%

※2018年の実績には、新設の亀戸紙工センターの実績も含まれる。

※2 2020年8月より亀戸紙工センター電力の検針メーターを設置。それ以前の数値が不明のため、評価から外す。CO2の合計値は本社工場・出荷場の合計値を示す。

※基準年度は、2014年4月～2015年3月。但し2018年5月に亀戸紙工センターとして新規事業所を稼働させたため、2018年を新たな基準年として活動していく。

※CO2 排出係数は、2017年実績 TEPCO 調整後排出係数 0.474kg-co2/kwh を使用した。

○目標達成 △目標未達成但し基準年比減 ×目標未達成

6. 環境経営計画・取組結果と評価、次年度の取組内容

環境活動計画	取組結果と評価、	次年度の取組内容
1. 二酸化炭素排出量削減 (電気) ①運転時間外のUVランプ消灯 ②エアコンフィルターの定期清掃 ③作業箇所単位での照明オフ ④使用していない設備の待機電源カッ	計画連休することもなくなり、コロナ禍以前の状況に戻りつつある。ただし、コロナ禍の影響は顧客にも現われており、顧客の売り上げバランスに変化がみられた。電気使用量については亀戸紙工センターの使用量が増加しているが、倉庫として使用していたフロアを、生産エリアとして使用することが多くなってきたことも原因の一つとなっている。	亀戸紙工センターについては、さほど気温が高くはないにもかかわらず、冷房を使用していることがしばしば見受けられたので、エアコンを使用してもよい外気温を設定する。
2. 二酸化炭素排出量削減 (ガソリン・軽油) ①エコドライブの徹底 ②効率的なルートで配送 ③低燃費車両の導入・切り替え	顧客への訪問は、軽自動車を利用することが増えている。配送については、協力会社から自社への切り替えが進み、配送ルートの短縮が図られている。	
3. 廃棄物排出量削減 (廃プラ・一般廃棄物) ①アッセンブリ部余剰品廃棄時の分別の徹底 ②サンプル品廃棄時の分別徹底 ③缶バッジの過剰生産を抑える。 (産廃からリサイクル品へ) ④コピー用紙の裏紙利用	廃プラについて、用紙入荷量に対しての廃棄比率での評価を試みた。基準年から0.3ポイントの増加だったが、社内での加工が増えていること、フィルム原反の受注が増えていることなどが原因として挙げられる。一般廃棄物については、意識高く活動し、それに結果が伴っている。	
4. 化学物質適正管理 ①使用化学物質の統合により使用品目を減らし、総保管量を削減する ②ローラー洗浄剤の使用量を意識的に抑える	使用化学物質の主たるものは、インキを落とす溶剤だが、印刷機内での自動洗浄のため、マンパワーでコントロールすることが難しい。洗浄頻度を減らせるような印刷予定を心がけたい。	月々の評価だと、溶剤購入のタイミングでムラな月が出てしまうので、四半期単位での評価を行う。
5. 特色色合わせの改善による 廃インキの削減 ①特練インキ 10g 単位での製造 ②特練インキのデータ精度を上げ、不良インキの削減	意識を持って活動しているが、効果がなかなか現れない。特色の仕事が多いと、どうしても廃棄量が増えてしまう。リピート性の高い案件については、残肉を残すことも検討する。	受注案件の内容で左右されるため、四半期単位での評価を行う。
6. 総排水量の削減	節水を心がけ、意識して活動できていた。	

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規は以下の通りで、4月1日遵守評価の結果、これらへの違反はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

適用環境関連法規等	適用される事項 (事業活動、施設、物質等)	遵守状況の確認・評価
廃棄物処理法	廃プラ等の産廃	委託契約等
騒音・振動規制法	印刷機3台・断裁機1台 打抜き機3台・角丸機2台	届出確認 OK
東京都火災予防条例	洗浄剤	在庫量を危険物指定数量の 1/5以下に抑えられている OK
有機溶剤中毒予防規則	印刷溶剤・洗浄剤	作業場での屋外への排気が 常時行われている
PRTR法	製版関連薬品・印刷溶剤・ 洗浄剤	SDSの入手・保管 OK
東京都環境確保条例	工場認可	届け出・標識等確認
フロン排出抑制法	フロン	簡易点検

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

昨今、サステナブルな環境配慮の世界的な動きや、顧客の紙媒体を無くしてCO₂を削減する取組みで印刷物が減少し厳しい状況です。このEC21の活動が逆に印刷物のものづくりの中で顧客に対してアピールポイントになることや、一つ一つの仕事でCO₂をどれだけ輩出しているか証明できる体制がもてきたとしたならば、信用信頼を深め強力な強みなるのではないかと感じております。

今回の結果は概ね目標値を達成できておりますが、印刷機に関する「化学物質使用量」と「特色色合わせ改善による廃インキ削減」に関しては、同業印刷会社の廃業や倒産などで、印刷だけの仕事「刷り専」や大ロットの仕事が増えたことで、使用量が上回っている状況です。売上が109.7%に対して「特色色合わせ改善による廃インキ削減」のインキ購入量が129%で、印刷だけの仕事「刷り専」が増えている裏付けが取れます。この「刷り専」増加で廃インキ削減量15.8%はオペレーターの努力の結果です。同様に「化学物質使用量」も目標値からは114%増ですが、インキ購入量129%から見ると押さえられていると考察ができます。また現在の目標値はコロナ禍の売上減少に準じたものなので、今後売上也徐々に基準年度近くまで伸びてきているので、改めて目標値改善の必要性を検討して参りたいと思います。

(以上)